

## Profile

アレクサンダー・ジンク / Alexander Zinke

環境コンサルタント。ウィーン在住。ドイツのザールランド大学およびカナダのサイモン・フレーザー大学で生物地理学を学ぶ。1986年～1998年、世界自然保護基金（WWF）ドイツ、同オーストリアに所属。ガブチコボ - ナギムロス水力発電ダム反対活動、ヨーロッパ共同の家・エコロジーのレンガプロジェクト（かつて鉄のカーテンが存在した地域に沿った自然保護活動）、WWF “緑のドナウ” 国際プログラム等、ライン川、ロワール川、ドナウ川において複数のNGOプロジェクトの主導する国際的な河川プロジェクトに参画。

1998年「ジンク中東欧環境コンサルティング」を設立。河川に関する幅広い知識、技術、豊富な経験により、国連開発計画(UNDP)、地球環境ファシリティー(GEF)、ヨーロッパ委員会、ドナウ川保全国際委員会、WWF、グリーンピース等より定期的に環境コンサルティング業務を任されている。とくにダム、水質汚染や航行のためのインフラ整備の影響評価などにおいて実力を発揮。

特殊な業務としては、カルパート・バルカン山脈の危険な採掘現場のリスク評価を実施し、鉱害復旧の構想を策定。ルーマニアでは、伝統農業や貴重な洞窟が特徴の山岳自然公園（75,000ヘクタール）の包括的管理計画を作成した。さらに国境を越えた河川保全実現のために、多様な利害関係者を巻き込んだプロセスを促進してきた。とくにムーラ川・ドラバ川・ドナウ川地域は、2012年にユネスコより生物圏保護区世界ネットワークの一部に組み込まれている。同地域はヨーロッパ最大の保全された河川景観（川の長さ700km、総面積8,000km<sup>2</sup>）であり、世界最初の5カ国にまたがる生物圏保護区である。また、様々な形態の水質汚染の低減、自然ツーリズムの展開というテーマにも取り組んでいる。

2001年からは、パンパークス財団([www.panparks.org](http://www.panparks.org))の6名の公認認証者の1人として、ヨーロッパ全域における最良の自然保護地域を評価している。（これまでにフィンランドからグルジアにわたる10地域を検証）。

10年以上にわたり様々なヨーロッパ諸国において、EU水資源枠組み指令の試験的な実施、および国連の**統合河川流域管理**にも従事。欧州委員会（運輸総局及び環境総局）との緊密な協力の中で、新たな「水路開発プロジェクトの統合計画マニュアル」の作成を主導。本マニュアルはヨーロッパの水工学プロジェクトに適用される斬新で極めて重要な戦略である。（例：いかなる主要河川の利用、開発も環境保護法に抵触しないものとし、双方に利益となる解決策を講じるようにする。）

また2012年10月より、南東ヨーロッパ10か国（オーストリアからアルバニアまで）の試験地域で、EUが出資する統合河川管理を効果的に実施するプロジェクトに着手している。

氏の主な活動の場である中央・東ヨーロッパ（ドイツからルーマニアにかけて）は、治水と農業・産業開発の歴史が長く、いまなお豊かな自然に恵まれている地域である。氏はこれまでNGOおよび幅広く一般市民と協働し、湿地回復、国立公園管理、国際環境政策・プロジェクト管理および社会教育において専門的な経験を生かしてきた。河川、保護区等の統合水資源管理において25年の実績を誇る。著書および共著も数多く手掛けている。

日本には1999年、2000年、2002年に、ヨーロッパにおける河川再生、WFD、治水に関する会合、河川視察と講演のため招かれている。今回の来日は4回目となる。